

今回のテーマ

戦後 80 年を迎えて

●令和7年7月11日(金) 平和な国際社会を考える会

7月12日、宇都宮空襲から80年目を迎えました。宇都宮市では、これまでも戦争の悲惨さを後世に伝え、命の尊さを見つめ直す様々な取り組みを行ってきました。その中で、学校としてできることはないかを検討し、生徒会執行部を中心に発信していこうと考えました。そして、前日の生徒会朝会で〈平和な国際社会を考える会〉をTV放送で実施しました。そのときの様子をご紹介します。

集会の最初に右の写真を見せ、下の①の質問をしました。各学年の結果を平均すると5割強の生徒が「宇都宮大空襲」の日という認識を持てていませんでした。



さっそくですが、この場所がどこか分かりますか？向こうに見えるのは栃木県庁です。皆さんは、明日、7月12日が何の日か分かりますか？この場所に深く関係のあることです。

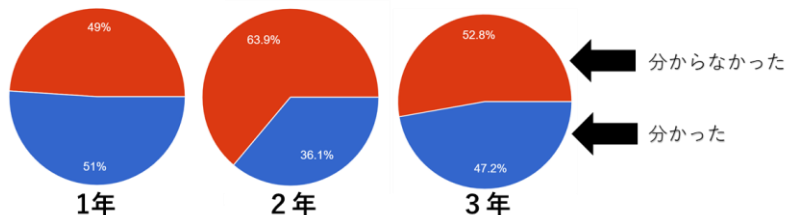


宇都宮大空襲



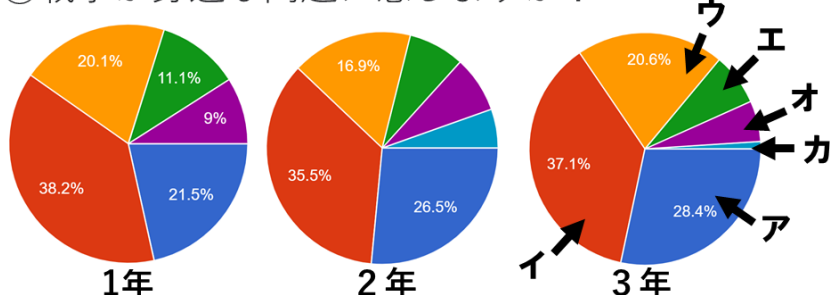
2つの写真は同じ場所です。県庁方面を見たときの現在と過去です。宇都宮大空襲について簡潔に説明します。

①県庁前の写真を見て、7月12日に起こった出来事が「宇都宮大空襲」だと分かりましたか？



しかし、次の②の質問に対する回答から、戦争に対する危機感が高まっていることが伺えました。各学年の結果を平均すると、81.6%の生徒が、戦争が身近な問題と感じ始めていました。

②戦争が身近な問題に感じますか？



ア とても感じている
イ まあまあ感じている
ウ どちらかと言えば感じている
エ どちらかと言えば感じていない
オ あまり感じていない
カ 全く感じていない

ここで、^{こいたばし}小坂橋さんが作成した『少年とハト』を紹介しました。

この方は、宇都宮市の元小学校の教員で、宇都宮大空襲をテーマにした絵本を3部作書きあげました。宇都宮空襲の際の出来事を子どもたちに伝えていかなければという思いが原動力になったそうです。



小坂橋 武 さん

絵本『少年とハト 宇都宮大空襲Ⅱ』

あらすじ

戦前、宇都宮の二荒山神社には、たくさんのハトが穏やかに暮らしていました。人々によく^{なつ}懐き、手にすら止まるほど、信頼関係があったのです。ところが昭和20年7月12日、宇都宮がアメリカ軍による大規模空襲を受けると、町は焦土と化し、多くの人々が飢えに苦しむようになります。そんな極限の状況下で、人々は捕まえられるものは何でも口にせざるをえず、ついにはあの慣れ親しんだハトでさえ、食料としてしまうことに……。

戦争がふだんの暮らしや大切なつながりをどれほど壊してしまうのかを、静かに、でもしっかりと伝えてくれる本です。戦後、ようやく人々の暮らしが落ち着くと、再びハトが戻ってきました。しかし、今ではかつてのように人の手に乗ることもなく、人間への警戒心は消えることがありません。この「ハトの変化」は、人々自身が戦争を忘れ、命を軽んじる社会になっていないか、私たちに深く問いかけています。



集会の最後には、広島市の平和祈念式典に向けて千羽鶴の作成を呼びかけました。各学級で100羽ずつ折鶴を作り、寄贈用の千羽鶴を完成させました（本校展示用に2セット作成）。当日は、2年4組の横田絆さん（本校の平和親善大使）が式典に届けてくれました。



10月1日（水）には、前期生徒会執行部による〈命の尊さを考える会〉が予定されています。一人ひとりが平和に対する自覚と責任を持ち、身近な人を大切にする行動が広がれば、いじめのような問題も減っていくでしょう。その思いをさらに紡ぎ、広げていくことで、戦争のない社会に一步步近づいていけるはずです。10月の集会の様子は後日お伝えします。

裏面には、7月に実施した〈平和な国際社会を考える会〉における生徒の振り返りを掲載しています。



戦争はいつ、どこで、何が火種になって起こるか分かりません。そして、その火種に自分が関わっていなかったとしても、巻き込まれてしまう人々がたくさんいます。だからこそ、私はやはり戦争はしてはいけなと強く感じました。戦争の火種を作らないためには、私たちが日々平和に過ごすことがとても大切です。

世界中の国々や人々が仲良く、平和に暮らせるように、たとえ一人の国民であってもできることはあると思います。私自身も、様々なことを考えて、自分の選択に責任を持ちながら、周囲の人と共に楽しく幸せに生きられるような行動をしていきたいです。

家族が戦争に行ってしまうと悲しいはずなのに、「ばんざーい」と言っている人がいて、きっと、ものすごく辛い気持ちだったんだろうなと思いました。そして、食べ物がなく、かつては共存していたハトを食べてしまう（仲間のような存在を殺してしまう）ことをしないと生きていけない状態があったんだと思うと、すごく悲しい気持ちになりました。私は、宇都宮大空襲だと写真では、気づけませんでした。そのため、これからもっと年月が経つと忘れられてしまうのではないかと怖い気持ちになりました。もっと自分から学びたいと思いました。

戦争は他人事ではないし、昔沢山の人達がつらい思いをしてでも伝えてくれた戦争の悲惨さや平和の尊さをこれからも語り継いでいきたい。日本の戦争は終わったけれど世界の戦争をまだ終わっていない。だからそれがなくなるように日本がお手本となるように自分でできること、平和を祈ることをしたいと思った。

戦争は1800年代とか結構前のものを感じていたけど、最後の戦争が終わってからまだ80年しか経っていないと知り、驚いた。日本で戦争が起きなくても巻き込まれてしまう可能性はあると思うから怖いなと思った。戦争が起きて、負けてもここまで復興できるのはとてもすごいなと思う。でも、その戦争の状態を少しだけ残しておくことで、現代の人にも伝えられるのかなと思った。

宇都宮空襲のことは前から知っていたが、深夜に米軍が約800トン以上の焼夷弾を約2時間20分もかけて街に落としていたことは知らなかった。その事実を知り、当時の人々のことを考えると、胸が締めつけられ辛い気持ちになった。若い世代にこうした戦争体験を伝えることや、千羽鶴を折って犠牲者を弔うような行動は、とても大切だと思った。

戦争を体験した人がたくさん努力をしてくださったおかげで今の平和な日本が成り立っているのを、改めて感じた。それとともに、アメリカやロシア、ウクライナなどの戦争が日本にまで来てしまったら、一度平和になった日本が壊れてしまいそうでとても怖いから、どの国も戦争が起こらない平和な世界になってほしいと思った。

いつか、私達とハトがもっと触れ合える世界が来てほしいと思う。

3年

2年

1年